



3月定例会 町政を問う 一般質問



作付け準備が進む水田

Q 町づくり条例の制定を
A 早期の制定を目指す



長島 正一 議員
本町の理念である「生命地域」宣言にふさわしい町づくり施策を推進するため、町民共通のルールである「町づくり基本条例」の制定を行うべきでは。

山崎 英樹 町長
まちづくりに向けての機運の成熟を進めるため「地域づくりリーダー塾」を開設し、人材育成を行い、住民自治のルールである「町づくり条例」制定を目指します。

Q 安心して住める農村社会の構築を
A 一人ひとりが地域、農地を守る気概を

長島 議員
本町は10年後、超高齢化社会を迎えます。住民が安心してこの地に暮らしていくには、長期的視点で新たな再生産構造の確立や、本来、集落が持っていた相互扶助システムの再構築が求められているのでは。

山崎 町長
地域を維持、運営をするためには、農家、人に視点をおいた政策を進めます。また、人口が減少する中、定住対策に全力を注ぐとともに、農地の管理については、集落が一体になって取り組む必要があります。集落支援を行います。

Q ポスト過疎法への思いは
A 新法制定に向け強く行動

小野 議員
現行過疎法のポスト過疎法について、その見直し、またその対策、今後の町政運営に当たっての影響等の考えは。

山崎 町長
島根県町村会として、過疎対策法制定の決議をし、国及び政府に要望しました。これまでの過疎対策は、産業振興、住民生活の基盤整備で一定の成果を評価できます。

財政の充実、強化とともに、新しい法律制定は本町にとってきわめて重要と考え、制定に向けて強い行動をとります。



山崎 英樹 町長
選択性になれば米価の維持が難しくなる懸念があります。
経営効率を上昇させても限界があり、町内の担い手組織の経営破綻が起きる可能性も生まれることから断固反対です。

院外薬局が4月1日より開局



Q 病院事業の将来展望は
A 救急医療体制の確保に向け努力

長島 議員
病院経営が厳しさを増し、議論がなされていますが、住民の病院に対する期待は大であります。
住民のかかりつけ医師の重要性や基本健診の受診率向上対策、県立病院との電子カルテのネットワーク化等への取り組みが必要では。
また、高齢化が進む中、住民自ら病院を守り育てる運動が大切です。

山崎 町長
住民の健康増進の施策として、生活習慣病予防対策や健診の受診率向上、保健指導の充実に向け、自治会単位での取り組みを進めます。
病院については、救急医療体制の確保に努め、かかりつけ医師の推進や高次医療機関との電子カルテの導入を検討します。
一方では、病院を守るためには住民の理解と協力が必要であり、お年寄りや女性の皆さんへの働きかけを行います。

Q 寮整備に支援を
A 町の役割を踏まえて

小野 議員
飯南高校の生徒寮の整備について、県立学校であっても「地域の学校」として町も支援すべきでは。

山崎 町長
県立学校であるので、県が責任を持って運営していくことが基本です。県と町の役割を踏まえながら、柔軟に現実的な考え方で支援していきます。



飯南高校